

的外

みのる法律事務所便り
令和7年9月第425号



みのる法律事務所
弁護士 千田 實
〒021-0853
岩手県一関市字相去57番地5
TEL:0191-23-8960
FAX:0191-23-8950

い な べ ん だ べ ん く
田舎弁護士の駄弁句

195



ハカリには いろいろあるが 生き方を
はかるハカリが 1番大事



令和7(2025)年9月1日
あおぞらうきよのすて
青空浮世乃捨

重さをはかるのは秤^{はかり}です。長さをはかるのは物差しです。はかるとは、重さや長さや広さや高さや深さや速さなどなどをはっきりさせることです。

それらをはっきりさせた上で、その先をどうしたらよいかを決めなければなりません。ものごとをはっきりさせるためには、ハカリが必要であることは誰でも分かっています。

いろいろなハカリがある中でも「人生はどう生きるべきか」ということをはかるハカリが1番大事なハカリであると私は確信しています。このハカリのことを『生き方のハカリ』と呼んでいます。

『生き方のハカリ』の中でも1番大事なハカリは『自分を幸せにし、まわりの人を幸せにできるかどうか』ということをはかるハカリだと確信しています。

このハカリのことを『究極の生き方のハカリ』と呼ぶことにします。この『究極の生き方のハカリ』について、掘^ほり下げたいという思いで、『生き方のハカリ』3部作を発行します。

第1巻は『生き方のハカリ(1)－その意義と理念－』、第2巻は『生き方のハカリ(2)－世の中で使われている生き方のハカリ－』、第3巻は『生き方のハカリ(3)－田舎^{い な べ ん}弁護士が使っている生き方のハカリ－』です。この事務所便りの前号では第1巻を同封しましたが、今回は発刊されたばかりの第2巻を謹呈させて戴きます。次回には第3巻を謹呈させて戴くつもりです。令和7年11月22日(土)の研修会ではそれらの駄弁本を副読本にして『生き方のハカリ』について考えてみたいのです。

幸せに ^いできるか否か はかりたい
そんなハカリを 持って生きたし



令和7(2025)年9月1日

あおぞらうきよのすて
青空浮世乃捨

『生き方のハカリ』は、物理的に存在するハカリではありません。物理的な物の重さや長さをはかるハカリではありません。生き方のハカリは、ハカリ自体もはかる対象も、物理的には存在しないのです。

心理的というか精神的というか、目や耳や鼻や口や手足で確かめられる物をはかるハカリではなく、心の中をはかるハカリです。ハカリ自体もはかる対象も心の中にあるのです。

生き方のハカリは、ハカリ自体もはかれる対象も ^{すがたかたち}姿 形がないのです。そのような姿形のないハカリで姿形のないものをはかるのですから、得体の知れない、ほんとうの姿が分からなくて、確かな手応えがなく、頼りないあやしげな感じがするものなのです。

ですが、「人間は、どう生きるべきか」ということをはかるハカリは、人間としてこの世を生きていくためには、絶対不可欠なものだと確信しているのです。83歳まで生かされている老弁護士としては、そのように確信しているのです。

その上で、『究極の生き方のハカリ』は『自分が幸せになれるかどうか、^{ひと}他人を幸せにできるかどうか』というハカリを心の中にいつでも持っていなければならないと確信しています。

物理的なハカリは、自然科学の進展により目を見張るほど進化しました。人間の病気の状況をはかるハカリは、体温をはかる体温計と、心臓や呼吸の音をはかる聴診器時代から ^{エムアールアイ}M R I やPETなどという全身状況をあつという間にはかるハカリ時代となりました。その進展にはビックリしています。A Iなどの開発も進む一方でどこまで進展するか分からず、人間がコントロールできなくなるのではないかと心配です。

人間の心の中にある『生き方のハカリ』は、2500年前の釈迦や孔子やソクラテスの時代から進展がない気がします。むしろ後退している気さえします。いまこそ、生き方のハカリについて深掘りしてみたいのです。

そのために、前句で紹介しました『生き方のハカリ』3部作を出します。時間がある時に斜め読みでもして下さい。

生き方を掘り下げ、知らせたいのです。

－これから特にやりたいこと－

八十路に入り、「残りわずかとなった人生は、どう生きるべきか」ということを考えることが多くなりました。20代で弁護士になり、62の^{やくどし}厄年(満61歳)までは、喧嘩犬のように法廷闘争の一方代理人となつて、相手方代理人と^{たたか}闘うという生活に明け暮れてきました。

62の厄年から本格的に闘病生活に入り、薬物療法では足りず、食事療法、人工透析治療、10回以上に及ぶ手術などでなんとか^の生き延びてきましたが、70歳に妻から腎臓をもらい生体腎移植手術を受け、ほぼ健常者と変わらない生活ができるようになってからは、喧嘩犬的弁護士はやめて、「仲裁は時の氏神様」と言われるような弁護士として生きることになりました。

そのような考えで生み出したのが、『人生は、いまの一瞬を、まわりの人といっしょに、楽しみ尽くすのみです』という『田舎弁護士の哲学』でした。その哲学を世に広めたくて多くの駄弁本を書き、この事務所便りや講演会でまわりの人に知らせてきました。

『田舎弁護士の哲学』を自ら実践し、まわりの人にも実践してもらうためにはどうしたらよいかと考えた結果、出た結論は『生き方のハカリ』を持たなければならないというものでした。

『生き方のハカリ』はどういうものでなければならないかとさらに^{ふかほ}深掘りしてみたところ、それは「自分が幸せになれるかどうか、他人を幸せにできるかどうか」というハカリでなければならないという結論に達しました。

『自分が幸せになれるかどうか、他人を幸せにできるかどうか』をはかるハカリを持たなければならないという結論に^{たど}辿り着き、このハカリに『究極の生き方のハカリ』と名付けることにしました。

『自分が幸せになれるかどうか、他人を幸せにできるかどうか』という『究極の生き方のハカリ』ではかって、それに添う生き方を実践するためには、自分はこれからどう生きたらよいかということを中心に掘り下げてみました。80歳を超える自分の人生経験で構築した経験則と、少ない脳ミソを^{より}絞出した知恵によって、『戦争反対・憲法9条死守』と『円満相続をしてあげる』という2つを実現することに役立つ活動に全力を尽くすという結論に至りました。

そのための具体的活動は、その思いを駄弁本や講演や研修会や新聞広告などで多くの人に知らせるといことだと考え活動しています。そのような行動の中核となるのがこの事務所便りです。この事務所便りをお読み下さっている皆様にもまず知らせたいのです。そしてそれを事務所便りを読んで下さっている方に広めてもらいたいのです。

そこで『生き方のハカリ』シリーズ3巻を書き上げ、『警鐘－危険を知らせたいのです－』シリーズを書き始め、さらには『幸齢者の背中を押す壁－80歳の壁を読んで－』を書いています。

これらの駄弁本は発行次第、この事務所便りをお読み戴いている方にはまずお読み戴きたく謹呈させて戴くつもりです。のみならず研修会での副読本としても使うつもりです。

コロナ問題解消後に再開した研修会も令和7年2月8日に第1回、4月5日に第2回、6月14日に第3回、8月30日に第4回が終わり、11月22日には第5回となります。おかげさまで回を重ねる毎に参加者も増え盛況せいけいようとなってきました。

『80歳の壁』という本がベストセラーとなり、「人生100年時代」の人間の生き方が話題となりました。法律は生き方のルール of 代表の一つですから、法律は勿論ですが、法律に限らず「人間はどう生きるのか」という問題についていっしょに考え、それを深掘りし、それを世の中に広めて行きたいと思います。この事務所便りをお読み戴いている皆様にはいっしょに考え、脳ミソを絞り出して、人間はどう生きたらよいかという知恵を生み出す作業を楽しみ、さらには世の中に広める作業を楽しみ、人生をいっしょに楽しんでほしいのです。

11月22日(土)午前10時から12時に予定している第5回研修会では、それまでに『生き方のハカリ』シリーズ全3巻を発行し、その駄弁本を副読本として、人間はどう生きたらよいかという話を中心に研修会を進行させてみたいと考えています。

令和8年に入ったら、1月24日(土)の第1回目の研修会では「高齢者となったらどう生きるべきか」という話を中心に研修してみたいと考えています。生き方は高齢者に限った問題ではないのですが、人生100年時代の現代は、高齢者時代が長くなっていますし、いずれは若い人も高齢者となります。いまから考えておいた方がいいのです。

人としてどう生きるべきかのルールとしては、国が作って国民にそれに従うように求めている法律がありますが、それも生き方のハカリの一つであり、その法律の専門家のはしくれである田舎弁護士的身ではありますので、法律の話もしますが、生き方のハカリは法に限られるものではなく、無限にありますので、広く話題を求めて話し合っていきたいと思います。

互いの心の中にある生き方のハカリについて語り合しましょう。お会いして話し合うことを楽しみにしています。皆様の心の中にある生き方のハカリを深掘りしてみましょう。